

### 経営(継承)のツボ

### 理念



## 転期に立つ経営者の資質の鍛え方<sup>(46)</sup> ゆうざのき **宥座之器**

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com  
 ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

#### 「学校様」とは……

栃木県足利市昌平町には、地元  
 の古老から「学校様」と呼び親しま  
 れている足利学校がある。

町名の由来は、孔子の生地「昌  
 平郷」から名づけられた。

「学校様」とは、1549(天文  
 18)年7月、鹿兒島に上陸したス  
 ペイン人宣教師のフランシスコ・  
 ザビエルが、インドのイエズス会  
 に宛てた書簡のなかで、「日本国  
 中最も大にして、最も有名な坂東  
 の大学」と記された日本最古の学  
 校のことである。

創建は、奈良時代の国学の遺制  
 説、平安時代の小野篁説、鎌倉時  
 代の足利義兼説などの諸説があつ  
 て明らかではないものの、名実と  
 もに学校としての形態を整え隆盛  
 したのは、関東管領・上杉憲実が  
 1439(水享11)年に初代座主  
 (校長)として鎌倉円覚寺の僧・快  
 元を招へいしてからのこと。

廃藩置県により足利藩が廃止さ  
 れる1871(明治4)年までの  
 430年余の間、座主23代にわたつ  
 て人材教育が行われ、最盛期には  
 3000人の学徒を擁したという。  
 教育内容は儒学を中心にしたも

のだが、易学、天文学、兵学、医  
 学等の実用主義的学問なども重用  
 され、宣教師ルイス・フロイスの  
 著した「日本史」には、総合大学と  
 して紹介され遠くヨーロッパまで  
 名声を博していた。

1990(平成2)年、「史跡足  
 利学校後保存整備事業」によって  
 江戸時代中期の姿に甦った学校の  
 方丈には、「宥座之器」がある。

#### 「虚則欿 中則正 満則覆」

孔子が魯の桓公の廟を参詣した  
 折、欿器(斜めに立つ金属の器)が  
 目に止まった。

廟守に問うと「宥座の戒めをな  
 す器である」とのこと。

宥の訓読みは、なだめる。

その意味は、①緩やかにする、  
 ②寛大に処する、③穏やかにする、  
 ④荒立てないようにする——など  
 がある。

虚なれば則ち傾き(虚則欿)

中なれば則ち正しく(中則正)

満つれば則ち覆る(満則覆)

空の時は傾き、ほどよく水を入  
 れると正しく水平を保ち、水を入  
 っばい入れるとひっくり返る。

これが、「宥座之器」である。  
 『荀子・宥座篇』には、「満ちて覆

らない者はいない」と弟子たちに  
 無理をすることや満ち足りること  
 を戒め、中庸の徳、謙譲の徳の大  
 切なことを教えていることが記さ  
 れている。

足利学校には、一口湯飲みほど  
 の銅器が、2本の鎖によって吊る  
 された状態で展示され、次のよう  
 な説明が書き添えられていた。

人は食べすぎれば、お腹を壊し  
 ます。といって、食べなければ、  
 体力がつきません。

食べ過ぎもせず、食べ足りなく  
 もない、腹八分目が理想です。

この器に、水を少しずつ、ゆつ  
 くりと入れてみて下さい。

傾いている器が、だんだん水平  
 になってゆきます。

さらに、入れ続けると、器は傾  
 いて、水はこぼれてしまいます。

入れ足りなくてもだめ、入れ過  
 ぎてもだめ。

ちょうど良い分量のとき、器は  
 水平を保つことができます。

これを、中庸といえます。

中は、偏ならず倚ならず、過不  
 及無きの名なり。庸は平常なり。  
 「宥座之器」の学びから得られる  
 ものは少なくない。

身近に置いて戒めとしたい。